

ベートーヴェン名言集

江川剛史
(編集)

この本は、
ベートーヴェンを知らない、
全ての人に捧げます。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(独: Ludwig van Beethoven、1770年12月16日 - 1827年3月26日)は、ドイツの作曲家。音楽史上極めて重要な作曲家であり、日本では「楽聖」とも呼ばれる。古典派音楽の集大成かつロマン派音楽の先駆けとされている。

[生涯]

父ヨハンと、宮廷料理人の娘である母マリア・マグダレーナの長男として生まれる。

ベートーヴェンの父も宮廷歌手(テノール)であったが無類の酒好きであったため収入は途絶えがちで、1773年に祖父が亡くなると生活は困窮した。

1774年頃よりベートーヴェンは父からその才能を当てにされ、虐待とも言える苛烈を極める音楽のスパルタ教育を受けたことから、一時は音楽そのものに対して嫌悪感すら抱くようにまでなってしまった。

母の死後は、アルコール依存症となり失職した父に代わり、仕事を掛け持ちして家計を支え、父や幼い兄弟たちの世話に追われる苦悩の日々を過ごした。

1792年7月、ハイドンに才能を認められ弟子入りを許可され、ピアノの即興演奏の名手として名声を博した。

20歳代後半ごろより持病の難聴が徐々に悪化、28歳の頃には最高度難聴者となる。

音楽家として聴覚を失うという死にも等しい絶望感から、1802年には『ハイリゲンシュタットの遺書』を記し自殺も考えたが、強靱な精神力をもってこの苦悩を乗り越え、再び生きる意思を得て新しい芸術の道へと進んでいくことになる。

1804年に交響曲第3番を発表したのを皮切りに、その後10年間にわたって中期を代表する作品が書かれ、ベートーヴェンにとっての傑作の森と呼ばれる時期となる。その後、ピアニスト兼作曲家から、完全に作曲専業へ移った。

40歳頃(晩年の約15年)には全聾となった。また神経性とされる持病の腹痛や下痢にも苦しめられた。

非行に走ったり自殺未遂を起こすなどした甥カールの後見人として苦悩するなどして一時作曲が停滞したが、

交響曲第9番や『ミサ・ソレムニス』といった大作、ピアノ・ソナタや弦楽四重奏曲等の作品群は彼の未曾有の境地の高さを示すものであった。

1826年12月に肺炎を患ったことに加え、黄疸も発症するなど病状が急激に悪化、病床に臥す。

10番目の交響曲に着手するも
未完成のまま
翌1827年3月26日、
肝硬変により56年の生涯を終えた。

その葬儀には2万人もの人々が駆けつけるという異例のものとなった。

ベートーヴェンの生涯
VIE DE BEETHOVEN
ハイリゲンシュタットの遺書
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven、
ロマン・ロラン **Romain Rolland**
片山敏彦訳

わが死後、
この意志の遂行さるべきために。
by ベートーヴェン

おお、
お前たち、
——私を厭わしい頑迷な、
または厭人的な人間だと思い込んで
他人にもそんなふうがいいふらす人々よ、
お前たちが私に対する
そのやり方は何と不正当なことか！
お前たちにそんな思い違いをさせることの
隠れたほんとうの原因を
お前たちは悟らないのだ。
by ベートーヴェン

私は自分の耳が聴こえないことの悲しさを
二倍にも感じさせられて、
何と苛酷に押し戻されねばならなかったことか！
by ベートーヴェン

他の人々にとってよりも
私にはいっそう
完全なものでなければならない
一つの感覚(聴覚)、
かつては申し分のない完全さで
私が所有していた感覚、
たしかにかつては、
私と同じ専門の人々でも
ほとんど持たないほどの完全さで
私が所有していた
その感覚の弱点を人々の前へ
曝け出しに行くことが
どうして私にできようか！
by ベートーヴェン

私がお前たちの仲間入りをしたいのに
しかもわざと孤独に生活するのを
お前たちが見ても、
私を赦してくれ
by ベートーヴェン

私はこの不幸の真相を
人々から誤解されるようにして置くより
ほか仕方がないために、
この不幸は私には二重につらいのだ。
by ベートーヴェン

ときどきは人々の集まりへ強い憧れを感じて、
出かけてゆく誘惑に負けることがあった。

けれども、

私の脇にいる人が遠くの横笛の音を聴いているのに
私にはまったく何も聴こえず、
だれかが羊飼いのうたう歌を聴いているのに
私には全然聴こえないとき、
それは何という屈辱だろう！

by ベートーヴェン

たびたびこんな目に遭ったために
私はほとんどまったく希望を喪った。
みずから自分の生命を絶つまでには
ほんの少しのところであった。

——私を引き留めたものは
ただ「芸術」である。

by ベートーヴェン

自分が使命を自覚している仕事を仕遂げないで
この世を見捨ててはならないように想われたのだ。

by ベートーヴェン

このみじめな、
実際みじめな生を延引して、
この不安定な肉体を
——ほんのちょっとした変化によっても
私を最善の状態から
最悪の状態へ投げ落とすことのある
この肉体をひきずって生きて来た！
——忍従！

by ベートーヴェン

今や私が自分の案内者として選ぶべきは
忍従であると人はいう。

私はそのようにした。

——願わくば、

耐えようとする

私の決意が永く持ちこたえてくれればいい。

by ベートーヴェン

自分の状態がよい方へ向かうにもせよ

悪化するにもせよ、

私の覚悟はできている。

by ベートーヴェン

神よ、

おんみは私の心の奥を照覧されて、

それを識ってられる。

この心の中には

人々への愛と善行への好みとが在ることを

おんみこそ識ってられる。

by ベートーヴェン

不幸な人間は、

自分と同じ一人の不幸な者が

自然のあらゆる障害にもかかわらず、

価値ある芸術家と人間との列に伍せしめられるがために、

全力を尽したことを知って、

そこに慰めを見いだすがよい！

by ベートーヴェン

お前たちがこの先
私よりは幸福な、
心痛の無い生活をするのは私の願いだ。

by ベートーヴェン

お前たちの子らに徳性を薦めよ、
徳性だけが人間を幸福にするのだ。
金銭ではない。
私は自分の経験からいうのだ。
惨めさの中でさえ私を支えて来たのは徳性であった。

by ベートーヴェン

自殺によって自分の生命を絶たなかったことを、
私は芸術に負うているとともに
また徳性に負うているのだ。

by ベートーヴェン

さようなら、互いに愛し合え！

by ベートーヴェン

墓の中に自分がいても
お前たちに役立つことができたら
私はどんなにか幸福だろう！

by ベートーヴェン

来たいときに何時いつでも来るがいい。
私は敢然と汝(死)を迎えよう。

by ベートーヴェン

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「ベートーヴェンの生涯」岩波文庫、岩波書店

1938(昭和13)年11月15日第1刷発行

1965(昭和40)年4月16日第17刷改版発行

2010(平成22)年4月21日第77刷改版発行

入力:門田裕志

校正:仙酔ゑびす

2012年4月15日作成

2012年5月16日修正

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ベートーヴェンの生涯
VIE DE BEETHOVEN

ベートーヴェンの手紙

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン **Ludwig van Beethoven**、
フランツ・ゲルハルト・ヴェーゲラー **Franz Gerhard Wegeler**、
エレオノーレ・フォン・ブロイニング **Eleonore von Breuning**、
ロマン・ロラン **Romain Rolland**

片山敏彦訳

最近僕はかなりたくさん作曲した。

by ベートーヴェン

今僕は何者とでも力競べをやれないことはないのだ。

君が去ってから以後、

僕はあらゆる種類の音楽を書いた、
歌劇や宗教楽までも。

by ベートーヴェン

耳はだんだん悪くなるし、

腹は状態依然なのだ。

こんな状態が前の秋までずっと引き続いて、
僕はときどき希望を見失った。

by ベートーヴェン

耳だけはやはり、

昼も夜もブンブン鳴りどおしだ

by ベートーヴェン

人が低声で話しているとほとんど聴こえない。

by ベートーヴェン

近来いづらか愉快な生活を僕は取り返している。
前よりも人なかへ出ることも多くなっている。
二年前から僕がどれほど
孤独な悲しい生活をして来たかは、
君には信じられないくらいだ。

by ベートーヴェン

僕はまだうんと働かなければならない。
耳さえこんなでなかったら
地球の半分をとっくの昔
歩き尽していたろうに。

by ベートーヴェン

これはどうしても僕が実現しなければならないことだ。
自分の音楽を仕上げ
世に示すこと以上の大きい楽しみは僕にはない。

by ベートーヴェン

おお、
この病気から解放されて
僕は全世界を抱き締めたい！

by ベートーヴェン

そうだ、僕の若さは今
ようやく始まりかけたことを
僕は感じている。

by ベートーヴェン

少し前から、
身体のちからは今までになく増進している。
——それに伴って精神力も。
はっきり定義できないなりに
しかし予感している目標へ、
僕は日ごとに近寄っている。
by ベートーヴェン

君のベートーヴェンは
ただこのことの中にのみ
生き得るのだ。
by ベートーヴェン

僕には休息ということはまったくくない。
僕の休息とは夜の眠りだけだ。
by ベートーヴェン

僕は、
この世の生活から獲得した幸福を携えて
君たちと再会したいのだ
by ベートーヴェン

私の運がどんなに苦しく恐ろしいものであっても、
至高の神の聖旨に服すことによって、
自分の運を耐え抜く力が与えられることであろう……
by ベートーヴェン

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「ベートーヴェンの生涯」岩波文庫、岩波書店

1938(昭和13)年11月15日第1刷発行

1965(昭和40)年4月16日第17刷改版発行

2010(平成22)年4月21日第77刷改版発行

入力:門田裕志

校正:仙酔ゑびす

2012年4月15日作成

2012年5月16日修正

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ベートーヴェンの生涯
VIE DE BEETHOVEN

ベートーヴェンの『手記』より(訳者抄)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven

片山敏彦訳

現在のような日常生活を
もうこれ以上つづけないことだ！
芸術もまたこの犠牲を要求しているのだ。
by ベートーヴェン

気ばらしによって休息するのは
いっそう力づくよく芸術の仕事に
努めるためでなければならない。
by ベートーヴェン

ヘンデルとバッハと
グルックとモーツァルトと
ハイドンの肖像を
私は自分の部屋に置いている。
それらは私の忍耐力を強めてくれる。
by ベートーヴェン

田園にいれば
私の不幸な聴覚も私をいじめない。
そこでは一つ一つの樹木が
私に向かって
「神聖だ、神聖だ」と語りかけるようではないか。
by ベートーヴェン

神は非物質である。
それ故
神は一切の概念を超えている。
by ベートーヴェン

神は永遠であり
全能であり
全智であり
遍在であると。
by ベートーヴェン

……おお、
神よ、
おんみはあらゆる時と所との真実なる、
永久に浄福なる、
不変なる光である。
おんみの叡智は無数の法則を認めつつ、
しかもおんみの行為は常に自由であり、
おんみの行為の結果は
つねにおんみ自身の栄光となる。
……おんみに一切の讃美と恭敬とが捧げられよ！
おんみのみが真の浄福者である。
一切の法則の実体、
一切の叡智の姿であるおんみは
全宇宙に現在して一切事物を保っている。
by ベートーヴェン

私が幾度か情念のため悪へ混迷したとき、
悔悟と清祓を繰り返し行なうことによって私は、
最初の、
崇高な、
清澄な源泉へ還った。
——そして、
「芸術」へ還った。
そうすると、
どんな利己欲も心を動かしはしなかった。
by ベートーヴェン

人類の善行者たちも自分の豊かな力に傲りはしない。
by ベートーヴェン

森の中の全能者よ！
森にいて私は幸福である。
一つ一つの樹が(神よ)おんみを通じて語る。
おお、
神よ、
何たるすばらしさ！
この森の高いところに静かさがある
——神に仕える静かさが。
by ベートーヴェン

忍耐——(神への)忍従——忍従！
かくて極度の不幸の中でさえ
なお得るところがあり、
そしてわれわれはわれわれ自身を、
神によってわれわれの欠点を
赦されるに値する者となすことができる。
by ベートーヴェン

正しい道の見究めがたい
この世のお前の旅路において、
お前の足跡は確かに坦々たるものではないであろうが、
しかし徳の力は、
つねに正しい方向へお前を前進せしめるであろう。
by ベートーヴェン

編集:江川剛史

文章:青空文庫

底本:「ベートーヴェンの生涯」岩波文庫、岩波書店

1938(昭和13)年11月15日第1刷発行

1965(昭和40)年4月16日第17刷改版発行

2010(平成22)年4月21日第77刷改版発行

入力:門田裕志

校正:仙酔ゑびす

2012年4月16日作成

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫

(<http://www.aozora.gr.jp/>)で作られました。

入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。